

I 知的障害のある児童・生徒を対象とした教育内容・方法の充実事業報告

知的障害のある児童・生徒を対象とした教育内容・方法の充実事業 各教科等を合わせた指導充実検討委員会

<委員>

菅野 敦	東京学芸大学 教授	専門委員
中坪 晃一	植草学園短期大学 学長	専門委員
下島 啓道	都立久我山青光学園 校長	
安武 ひろみ	都立高島特別支援学校 校長	
桑山 一也	都立王子第二特別支援学校 校長	
馬場 信明	都立小岩特別支援学校 校長	
小川 達夫	都立久我山青光学園 主幹教諭	
稗田 知子	都立王子第二特別支援学校 主幹教諭	
渡邊 寛子	都立小岩特別支援学校 主任教諭	
積田 寛美	都立高島特別支援学校 主任教諭	

I 知的障害のある児童・生徒の教育内容・方法 (各教科等を合わせた指導)の充実事業報告

1 今、なぜ「生活単元学習」か

生活単元学習の現状と課題

知的障害のある児童・生徒の教育では、「各教科等を合わせた指導」に代表されるように、生活に結び付く実践的・具体的な指導を行うことが大切です。しかし、とりわけ「生活単元学習」の指導については、多くの学校で以下に記すような現状が見られ、単元づくりや指導内容・方法の改善や工夫が必要です。

- ◆ 「調理」「校外歩行」など、学習内容が単一であり、単元として構成されていない。
- ◆ 教科別、領域別に指導できる内容が生活単元学習として実施されている。
- ◆ 曜日ごと・時間ごとに異なる学習集団や学習内容(学年で行う生活単元学習と学級で行う生活単元学習の混在等)で実施されているため、複数の単元が同時に進行することとなり、児童・生徒にとって分かりづらい学習展開となっている。
- ◆ 週時間割に「生活単元学習」の指導時間が分散して配置してあるため、単元のテーマに沿った学習の継続(学校生活づくり)が難しい。
- ◆ 火気や刃物を使用する調理活動や製作活動など、児童・生徒の生活年齢や発達段階を十分に踏まえない学習活動が計画されている。
- ◆ 「～ができるようになる」など、知識・技能の習得を図る目的を中心に実施されている。(「できないことをできるようにする指導」に比重が置かれている傾向がある。)

「生活単元学習」に対する理解を深め、児童・生徒の力を発揮する
「魅力ある単元」を創造することが求められます。

2 単元づくりで大切にしたいこと

～平成24年度の到達点～

教員間でアイデアを出し合い、作り上げた単元「みそパーティー」の実践を通して、単元づくりで大切にすべきことを4つにまとめました。

単元づくりで大切な「4つのこと」

- 1 児童・生徒が言える単元名にする。
- 2 分かりやすい単元の到達目標を設定する
- 3 児童・生徒が「今できること」を大切にする。
- 4 テーマに沿って様々な活動ができるように工夫する。



「どうしたらよいか…」と悩んでいる先生方へ



3 「魅力ある単元づくり」のために

平成25年度は、「4つのこと」を踏まえた単元開発に取り組み、改めて「単元づくり」について考えました。

そして、単元づくりのステップごとに、重要な視点を整理しました。

ステップ1 単元の構想(アイデア)

単元名は、単元の内容・目標を決定付ける重要な役割をもつ。

単元名は、単元の到達目標を表したものであり、児童・生徒と教師が単元に取り組む際の「合言葉」であることを実感しました。魅力ある単元づくりには、テーマや到達目標を表す適切な単元名が欠かせません。

ステップ2 単元指導計画の作成

単元テーマに沿った学校生活で単元を充実させる。

単元の到達目標や単元テーマを意識した学校生活を送ることで、児童・生徒が見通しをもって学習に取り組む姿や、自主的・自発的に行動する姿が見られました。単元のまとまりをもたせることができる指導計画の工夫が必要です。

ステップ3 授業実践

「今できること」を大切にして成功経験を広げる。

児童・生徒が、自分たちの力で活動を展開し、やり遂げたときの満足そうな姿を見て、「うまくいった」「自分でできた」という成功経験を増やすことで、活動への自信や次の学習への意欲を高めることが大切であることが分かりました。「できること」を発揮できる支援を工夫することが重要です。

単元づくりに当たっては、**児童・生徒の生活に結び付いた題材**から単元を構想することが大切です。
単元の構想に基づいて単元指導計画を練り上げ、**授業内容を工夫した実践事例**を紹介します。

